愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚參錢一ヶ月分六錢三ヶ月拾八錢半年分壹圓四拾錢（郵税共）（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麹町區下二番町三十七番地大日本女學會内　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社説

本誌創刊二週年を迎ふ

去にし明治三十五年三月廿七日本誌を發行し初めしより、茲に二週年を經過し、號を重ぬると五十に及びぬ。さても、今日より初刊當時を回想すれば、すゞろに今昔の感に堪へざるものあり、當時は、我が愛國婦人會設立後、漸く一週年にして、會員の數僅に壹万三千人に過ぎざりきに。今日は既に會員の數も其數十倍に達し、曩には總裁宮殿下の御上任あり、今又皇室より優渥なる恩命を蒙りぬ。是れひとつに、本會の人々が、國を思ふ至誠の貫徹して、今日の盛運を見るに至れるなり。今後益々其責任を重じ、いよ〱勉め勵みて、國家の爲に、本會の擴張を圖らざるべからず。

本誌初刊に、岩倉會長のものし給ひし、祝辭の一節に

希くはこの新聞に依りて我會の趣旨をなほ廣く世に知らしめ、ます〱愛國尚武の精神と、勤儉質素の美風とを、世の母儀たり主婦たる人々に啓沃し、儒弱奢靡の弊習を一掃し、其が家庭に生ひたつ兒童をして、健全有爲の良國民たらしむるの資けと爲し、且つは會員の間にも氣脈を通じて、相戒しめ相勵み云々

とあり。僅に數語の文字中に、婦人が國に對する務を云ひ盡されたり。殊に無事平穩なる當時に於て、ものされたる言の、今日の時局に當り、如何に適切なるかを味ふべし。

愛國尚武の精神は、平生に於て　國民の母たる婦人に修養せしめ、其家庭に生ひたつ兒童を訓練して、健全有爲の良國民たらしむる事の、この軍國に際して、如何に大切なるかを思ふべし。實に開戰以來、連戰連勝は、日本軍隊の忠勇なる精神が、其主因を爲せるにあらずや。

儒弱奢靡の弊習を去り、勤儉質素の美風を守るとの、亦如何に今日に當つて切要なるかを思ふべし。身分不相應の奢侈に耽り、懶惰安逸を貪る者、焉ぞ軍國に際し、國民一致の實を擧げて、外敵に當るを得ん。

戰爭は人を殺し、財を費し、人の子を孤にし、人の妻を寡にし、國の患たる事言ふまでもなし。されども、人々の心がけ次第にては、社會の弊習を一掃するの利益を收め得べきなり、即ち軍國の必要に迫られて、克巳の氣象を發揮し以て生活を質素にし、職務を勉勵し、能く儒弱奢靡の悪風を一變して、美風の慣習を作るとを得ば、國難の爲に却ッて社會を改良するとを得べきか。

敵國外患無きときは、國危しとは古人が經驗したる語なり。至尊の御威德と、軍隊の忠勇とに由り、やがて大捷を奏して、平和克復の後に於ても、尚ほ今日敵國に對する心がけを失はず、長へに勉勵と質素とを固守し、いよ〱麗しき皇運の御光を拜せんこと、今より會員方と共に、堅く約束せんとを望むなり。

◎戰時に對する婦人の覺悟

評議員　鳩山春子

左は此程記者の訪問に對して夫人が談話せられたる要領なり文字の責は記者にあり

○勞苦を別ッの覺悟　男子は今や鉾を取ッて戰ひに從事し、種々な勞苦を嘗めて居る時でありますから、婦人も國民の一員として、假令ひ自ら戰に從事せぬまでも、戰に從ふ人と同一の心懸を以て共に勞苦を別つ決心がなくてはなりません。故に平常よりは朝でも早く起きて働き、家事を整理し出來得べき丈け、儉約を守るべきで即ち一方には平常よりも餘分に働き、一方には平常よりも一層儉約を守らねばなりません。戰爭中の國民は、男でも女でも、各々其職分を勵んで、戰地にある同胞と共に勞苦を別ち、國難に酬ゆる精神さへあれば、所謂擧國一致して、敵に當る譯でありますから、戰ひにも勝ッとが出來ます。

○出征軍人家族の覺悟　日本人は兎角依頼心が强うて、何處までも獨立してやる決心か少いやうに思ひます。此度でも軍人の家族を慰問したり、助けたりする會が澤山に出來ましたが、之が爲に軍人の妻子が之に依頼する念を起してはなりません。主人が死ぬ程の働きを爲て居るのでありますから、其妻子たるものは内に在ッて、安逸なる生活を貪ッてはなりません。自分も戰場に在ると同一の決心を以て、善く働き善く勉めねばなりません。人が助けるからとて、之に依頼する事なく、獨立自營の大決心を要します。留守宅を慰問さらる〻婦人方でも成るべく家族の獨立心を奮起せしむる事に注意し之を激勵せしめねばならん事と思ひます。

○慈善の爲に盡す婦人　家に於て時間をよく利用し、家庭の整理を付けた以上は外に出て、慈善又は公共の爲に働くがよろしいが、戰爭の爲に心醉して、なんでも此際外に出て働かねばならぬ事と思うて、家庭の整理を付けないで以ッて、外に出て働くのは女子の本分でありません。殊に慈善事業の爲に働くにしても、名譽の爲に働くと云ふ觀念を以てはなりません。只其仕事に興味を以て働き、其仕事の成功を見て喜ぶと云ふ考で働かねば役に立ちません。西洋人などは家庭に働く力の餘りを利用して、何か善き仕事を引受け、其仕事をする事を以て一の樂みとして居ります。

○外出の容易なるを要す　日本では外に出る時は必ず衣服を着替へねばなりませんが、西洋人は夜會とか宴會とか、一の儀式の外平常の用事の爲に出かけるのは、別に着替へなどは致しません。内と外に服は同じであります。殊に日本でも平常外に出かけぬ、婦人に限り一層服裝などに注意しますが、用事の爲に出るまで、一々着物を着替て出る樣では、其間に時間も取りますし、つひ出憎くなりますから、此際成るべく平常着の儘でも外に出る樣に習慣を作りたいものです。尙身體の壯健を期する上、又儉約の上から云うても人車などにも乘らぬ樣にして、成るべく簡便にして働くことにしたいものと思ひます。

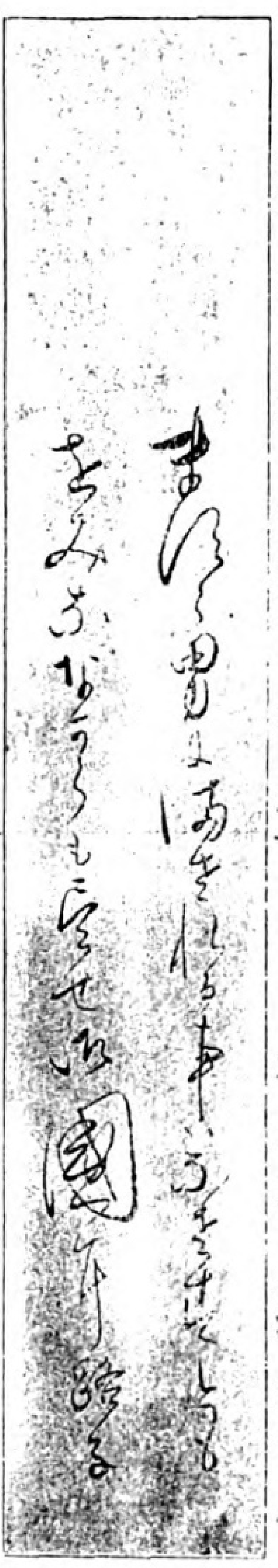
兩陛下及び皇太子同妃兩殿下より
御下賜金ありしをかしこみて

會長　公爵夫人　岩倉久子

御めぐみのかたしけなさを思ふにも
つとめざらめやはげめざらめや

愛國婦人會の創立より二週年を
ことほきて

皆人のつくす心も年月の
かさなるまゝに深くなるらん



評議員　鴻池路子筆

愛國婦人會によめる

理事　侯爵夫人　鍋島榮子

たをやめも心つくさは軍人
みくにの爲にはけまさらめや

武士は龜のかゝみとなりぬへし
いて立あとにこゝろのこさて

愛國婦人會のいやさかえゆくをことほきて

評議員　侯爵世嗣夫人　徳川久子

見るふみのはやしもかくやさかゆへき
てらす朝日の光りそはすは

愛國婦人の創刊二週年をことほきて

評議員　男爵夫人　千家俊子

玉くしけふたとせなから明くれに
みちひく文の功おほしも

しるへする文のいさをもあらはれて
このみちわくる人そ數そふ

評議員　中山幸子

やまとしまれのますらをの
たけきこゝろにおとらしと
をみなながらもひとすちに
みくにのためにつくさはや
しつかふせやのをのこらも
いさやてきちにむかはんと
うからやからみわすれつゝ
つくすこゝろのいさましさ

電話番町壹千三百三十番

◎本號附錄には名譽會員山階宮妃殿下御肖像を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論説

◎戰時に於ける婦人の覺悟

文學博士　村上專精

本篇は此程の牛込區各幹事の催されたる本會演說會に於ける博士の演說要旨なり

◎戰爭と婦人の地位　婦人と男子との地位が昔から甚しく懸け離れた譯は戰爭に原因して居る。それは戰爭を餘り男子に任し過ぎたからである。男子ばかりに依賴して女子は何事もせなんだから、自然に男子の地位が高く女子の地位が低くなつたのである。世の中の事は總て分業である、一人で何事も出來る譯でない。夫れ〳〵の持前によつて働かねばならぬ。男子の如く婦人に　ッて戰爭に從事せよと云うても夫はむづかしい事であるが、婦人は婦人だけの特色を發揮せしめねばならぬ。即ち軍人をして後顧の憂なかしむる事に力むる本會の如きは婦人の業として最も適當な仕事である。

◎戰爭は喜ぶべきものに非ず　戰爭は喜ぶべきものであるか、悲しむべきものであるかと云へば無論喜ぶべきものでない。然るに此節世間の樣子を見ると、戰爭は甚だ喜ぶべき事の樣に思うて、人々の心が轉倒して、地平線以上に登ッて平衡を得て居らぬ樣に思はれる。元來佛敎の方でも、平等門の方より云へば、戰爭はしてはならぬ、併し差別門の方から見れば已を得ず戰爭をせねばならぬ。同じ戰爭でも已を得る戰爭と、已を得ぬ戰爭とがある。怨を酬ゆる爲等の戰爭ならばせぬ方がよいが、戰爭せねば此國が保たんとか云ふ時は已を得ず戰爭せねばならぬ。今日の戰爭は止を得ぬ戰爭であッて、戰爭は決して喜ぶべきものでない。國の不幸であると云う事を婦人は特に善く考へて居らねばならぬ。

◎女子の勝れる事　昔より女子が男子に勝ッて居る所の一ヶ條は慈善である。女子は同情に富んで居るもので、人の憂ひを我身に引競へて憂ひを別つものである。故に何處でも慈善事業の最も發達するのは女子の力によるのである。凡そ世界に自己の一身程大切なものはないが、其一身を抛ッて迄も國に盡す人々が今現に外に出て戰うて居るのである。此人等には妻もあり子もあるであらう。然るにこれ等の人が死んだ後をも救ふ事をせず、妻子をして飢に泣かしむる事は國民としての義務が立たん譯である。內にある婦人方が同情の念を以て之を救はんとせらるるのは誠に適當な事である。天下の婦人之に應じて此擧を發せられん事を望むのである。

◎日本が戰爭に勝つ所以

衆議院議員　島田三郎

本篇は前と同しく此程の牛込區演說會に於ける演說の大要なり

我國が露國と戰うて善く之に勝つについては色々原因がありますが、其第一の原因は國民の品位がよいと云ふ事が一番の原因であります。日淸戰爭の時はどうで有ましたか支那人はづいぶん野蠻な行ひもありましたが、日本は總て國際公法の原則に從ひ、最も文明的の戰爭を致して敵國の負傷兵の如きも博愛の精神を以て我兵と同樣に病院に入れ、これを勞ッて助けました。又近くは北淸事件の時に於ても露國兵士の行動はどうでありましたか、罪もない小供を殺したり、婦人を辱しめたり、財物を奪ッたりして、あらゆる罪惡を働きました。之に反して日本軍は兵紀嚴肅にして一毫も侵す事なく、且ッ勇氣義俠等の點に付いても、文明國の人として恥かしからぬ行ひを致した事實は世界各國の等しく認めて稱賛措く能はざる處であります。これ等國民の品位の高い事を認めて、英國でも吾國と同盟を結びました。其結果として此度の戰でも日本は非常な便利を得て居ります。即ち假令ひ露國贔負の國でも若し露國と戰時同盟を結べば直ちに英國は日本に附きますから各國皆局外中立を守らねばならず、又露國が艦隊を阿洲から東洋へ回さんとしても、其途中にある石炭の供給所は多く英國領であるから、露國は石炭の供給を得難い爲に艦隊を回す事も出來ない譯であります、故に吾國は英國から一兵を借らずとも、非常な利益を得て居ります。其他露國は先頃其國內に在る猶太人を慘殺して人道に反する行爲を爲したが爲に、世界に散在する猶太人の感情を害したのみならず、文明各國からも野蠻なりとして大に非難せられて居ります、又露國は日本と比較すると五十四倍も大きな國でありますが、敎育が進歩して居りませんから、無學のものが多くありまして、特に書籍なり新聞なりの印刷に制限が置いてあッて、敎育が普及して居りませんから、日本の樣に假名付の新聞なら誰れでも讀めて、戰爭の有樣など津々浦々迄知れ渡る等いふ事がありません。隨つて自然擧國一致と云ふ事がむづかしく、戰爭にも負ける譯であります。

凡そ人間でも品位の高いものが最終の勝利を得るもので、一時何程盛んであッても其人の品位がない時には遂に失敗して仕舞ひます。一國でも其通りで、國民の品位が高い國が終の勝利を得ます所で、國民の品位を作るとは即ち多く婦人の司とる處でありまして、婦人に依ッて國民の品位は支配せらるゝものと云うてよろしい程である。即ち我愛國婦人會の事業の如きも國民の品位を高める譯であッて、西洋に對しても、日本では婦人までも戰時に在ッては大に活動して、全國幾万の婦人會員が軍人をして後顧の憂なからしむる樣努力をして居ると云ふ事が知れますと、即ち國民の品格の上に一段の光彩を添へるわけでありますから、皆樣方も此際一層の御奮發を希望します。

◎日本橋區會員募集の状況

評議員　日本橋區主任幹事　仁杉歌子

こは記者の訪問に對し仁杉夫人のものせられし談話の要領なり文字の責は記者にあり

◎七部の組合　日本橋區内は行政上の必要上よりして、區が一の部二の部と云ふやうに、七の部まで別かれて居ります。其の部に必ず一人二人の幹事がありますが何れも其部で最も有力な夫人方で是等の人が時々日本橋俱樂部等へ集まッて相談致します。

◎幹事の盡力　各組の幹事方は互に相競うて會員募集に盡力せられます。其方法は種々で一々申上げる譯にも往きませぬが、最初に檄文又は規則の類なる趣意書を配布して置きまして、店の番頭を使ッて勸誘さしたり、差配人の細君に賴んで纏めて貰ッたりして其跡より幹事自身に回ッて會員を募集する樣な手筈で各部の入會者は總て私の處で纏める事になッて居ります。

◎事務所の設立　と申せば大げさでありますが、私の處には會用の爲に一室を設けて、卓子などを置いて各部から來る入會其他の事柄を處理して居ります、成るべく金を使はぬ樣に、私が會費等の事まで扱ッて、其日の收入等を書付け主人の歸りを待ッて之を帳簿等に移して貰ひます。主人は夜になッて之を整理してくれます。又入會者を纏めて一週間に二度位づつ本部に私が出て色々な報告を致します。

◎現今の模樣　戰爭が始まッてから一層多忙を極めまして、寄附金も千圓許りありますし、會費の收入も千五百圓程あり、入會者も殆ど三百名も增しました。尚ほ日々申込があります。且つ私の區では徵收費等多くかゝらぬ樣にして、本部からの定めは集金の十分の一半は區費に下さるとの事でありますが、私の區では始めから十分の一で處理して居ります。

◎大日本女學會員詠草

（評點は〇を五點とし、を一點とし〇〇即ち十點を滿點とす）

、、、〇いくさにつきて　大阪　大高たへ子
おい人がみくにの爲と一人子を笑みて見送るそのこゝろはも

、、、〇同　岩手　種市まつ子
うぐひすのはつれまたる春なれど今年はときの聲のみぞまつ

、、、〇同　三重　龜井ゐと子
老いし親をさなき我子のこしおきてあはれますらを勇みてぞゆく

、、、〇露探　愛媛　石崎喜和子
やつさきにさくともあかじ御國をば仇に賣らんとすけだものは

〇〇もと豫備なりし某が豫備兵にて動員令に應じ出立ちける日よみて遺しける　神奈川　某女
親も子もわれやしなはんみいくさにいてたつ後に家なおもひそ

、、、〇時事有感　大阪　山下とく子
やすらかにいかてねぶらん大君の御心つかひしのびまつれば

、、、〇同　和歌山　浦つき子
つるぎたちとらぬ女もつは者をたすくるすべのなからましやは

、、、〇同　新潟　渡邊まさ子
何事もてにこそつかね昨日今日いくさいかにと思ひやられて

、、、〇同　兵庫　山川ことよ
北の海に荒波たつときゝしよりなみなゝがらもしづ心なし

、、、〇同　廣島　橋本とよ子
滿洲の曠野が原にわく露は朝日のかげにいまかきゆらん

、、、〇希望　京都　唐橋みれ子
つゝかなきをのこ子もちて國の爲よきものゝふにそだてゝしがな

、、、〇仁川旅順の戰勝を聞て　福島　三嶋たま子
戰ひはかちぬときゝつわが軒の梅さへゑめる春のあしたに

、、、〇同　大阪　吉田まさえ
大御心いかにあるらん賤の女もよろこびいさむけふのたよりに

、、〇　岐阜　白川穣子
天地の神のまもらす國なればよしあだ波はたちさわぐとも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰爭法規

◎戰爭の要義

法學士　某

○主戰論の論據（一）世界の各國が皆な獨立の國家として對立する結果各國の利害は互に異なる點がありますから、時々利害の衝突は免れません、それゆゑ遂に今回の樣に戰爭となる次第であります。（二）戰爭が出來ないものとすれば、國家は獨立の性質を失ひまして社會と區別のないようになります。（三）戰爭しないと國家は元氣を失ひます危險があるから備へも致しますか、戰爭がないと安逸に流れます。（四）戰爭せずに爭を止め平和を求むるは眞の和睦ではありません。後日再び平和を破壞するの恐れがあります。始より戰爭して相互の關係を定るに如きません。（五）戰爭は文明の發達を導きます。何となれば戰爭の爲に武器の發明、鐵道、造船等の技術が發達します。（六）戰爭は國民の愛國心體力智力を增進せしめ國家を強盛ならしむるものです。

○戰爭とは何ぞや　戰爭とは對立する國家と國家とが、互に武力を以て爲す爭鬪であります。古の戰爭は、敵國の人民をも皆敵と認めまして、無辜の人民まで殺し其財産は悉く奪うことになつて居りましたが、段々世界が開明に趣くにつれ、戰爭は國家と國家のみの爭鬪であつて、國家と人民との爭鬪ではない又人民相互の爭鬪でもない事が知れて來まして、敵國の交戰者のみを殺すことか出來ますか、其他の人民は殺すことが出來なくなりました。又戰爭は交戰國相互の爭鬪であるから、それ以外の第三國を害してはならず、第三國も交戰國は害してはならぬことになり、所謂る局外中立國として默て見て居る國が出來ました。

○戰爭の效果　戰爭か始まつて直接に生ずる效果は（一）人民に對する效果であります即ち我政府は日本に居る露國人民は放逐することが出來ます、併これは露探などの危險があるからであります。又し必しも放逐せねばならぬことはありません。露國にある日本人は喚戻すことが出來ます。何の理由で喚戻すのであると云うことは云はなくても出來ます。（二）條約に對する效果は條約全體か效を失ふものではありません。却て戰爭に依つて始め効力の生ずる條約さへあります。彼の赤十字條約等はこれであります。（三）外交官に對する效果元來外交官は、兩國の平和を維持せんか爲に外國に駐任するものでありますから、平和が破れたら、互に本國へ召喚するが例になつて居ります。（四）敵國との交通に關する效果は、日本人民は敵國と交通してはならぬと云ふ事はありません。我國を愛する念慮からして、我國の利益を計る爲の交通は出來ることになつて居ります。

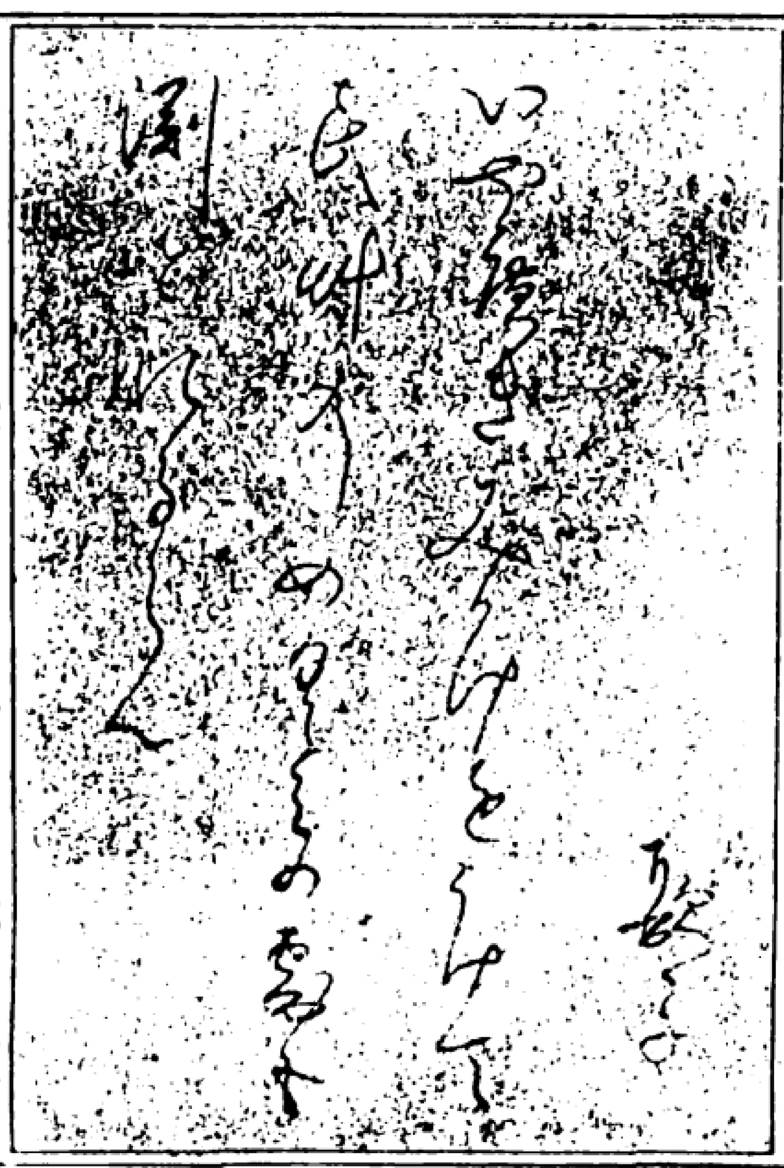
實話

隣の櫻

嚴谷小波閲　高階柳蔭譯

ある處にウルリヒと云ふ人がありましたが、家は可なり富んでゐるのにも拘らず、性質慾の深い人でありました。自分の住んでゐる處は立派な家宅て廣い庭もあり池もあつて、古い樹や美しい花の咲く木も見事な實を結ぶ樹も澤山ありまして、まづ何一つ不自由のない結構な身でありました。ウルリヒの裏庭は隣家のと地續きになつてをりまして、田舍のことですから別に垣根などの仕切りもなく、たゞ境界の目標に一つの大きな石が置いてある計りでした、するとその石の少し先に一本の櫻樹がありまして、毎歳美しい實が生りますので、ウルリヒはそれを欲しく思ひましたから、或時夜の暗まぎれにそつと裏へ行つて、境界の石を少し隣地の方へ轉して櫻樹を自分の方の地面内に取り入れて了ひました。それから次の日になりますとウルリヒは梯子を擔いて行つて、その櫻の樹へ登り美しい櫻實を一生懸命に採つてをりました。ところへ隣人はまゐりまして此の躰を見ましたから、「もし〳〵ウルリヒさん、それは私の方の櫻です、其樣に斷りなしに採つては困ります。」と申しますと、ウルリヒは樹の上から、「何ですと、貴方の櫻ですと、虛僞をお云ひなさい。これは私の處のです。それ御覽なさい。境界の標石は其方にあるぢやありませんか。」「ヤツ、こりや變だ、ハテ何うしたのだらう。何時の間にか標石が此方へ來てゐる。」「そら御覽なさい、この樹は私の方の地所内にあるのですから、何も貴方が愚圖〳〵云ふ事はないでせう。貴方は其處で見物しておいてなさい、オヽこの實の美しいこと、定めて美味いことだらう。」と憎々しげに云つてをりますと、何うした機會か梯子が倒れてウルリヒは地上へ落ちましたその拍子に境界の標石に足を打ちつけて到當そのために雙足を打つて跛になりました。

惡い事をすると一時は良いやうでも、必然何時かその報があります。



評議員　下田歌子筆

德育佳話

蛙の御料理

ゼカリヤ、ホヂソンといふ人は天性意地惡るではなかツたが、兎角細君を劣等な人間のやうに扱ふ、思ひ遣りの足らぬ所があツて、外で何か癪に障ッた事があると、屹度歸ッて奧さんに當りちらす。何時でも食物の料理が惡いと云ッて怒る。どうか夫を喜ばせやうと心を盡した事が、必ず小言の種となる。永く此責め苦に辛抱したが、益々つのるばかりであるから、或る日一計を案じ出しました。ゼカリヤは例の通り朝食をすまして業務に出かけたが、途中で大きな鱈を一尾買ッて、使に持たせて夕飯に料理し置けと細君に命じた。別に何に拵へよとの指圖もないから、羹肴にしてもフライにしても、蒸燒にしても必ず叱られるに相違ないと、例の手を承知して居るから、幸ひ魚が大きいので三通に料理して置かうと決心した。それから別に裏の小川から骨折ッて蛙を一匹捕へて來て、之も鉢に入れて、主人が歸ると四鉢とも蓋をして食卓に出した。夫は顏をしかめて見廻しながら今にも霹靂一聲といふ樣子で「己の買ッた魚は届いたか？」「ハイ届きました。」「どんなに料理した。屹度また食べられない物を拵へたらう。」と蓋を取りながら「こんな事だらうと思ッたて。フライにするなんて事があるか、蛙を煮て食ふ方かまだマシだ。」これは此先生の常套文句。「だッて吾夫フライがお好きだと思ッて。」「思ッてもないものだ、フライが好きだと何時さう云ッた？なぜ羹肴にしないんだ。」「此前お肴のあッた時羹ましたらフライの方が好いとおッしやいましたから、唯お氣に召すやうとフライに致しましたが、羹肴にも拵へて置きました」と蓋を取る。如何にもうまさうに出來て居たが、天のじやく先生は益々怒ッて、「ヘン結構に出來ましたよ、どん馬鹿の骨頂でなかッたら蒸燒にでもしたらうに。」辛抱強い細君は笑面をしながら、又別の鉢を夫の前に出す「是非お氣に召すやうにと思ひまして、蒸燒も拵へて置きました。」「お氣に召すものか、こんな不味いものが何で食べられる、蛙の肴付けの方がまだマシだぞ。」此御注文は兼て細君の期した所で、今度は夫の右手にある大きな鉢の蓋を取ッた。大きな蝦蟇が恐ろしい有樣でウン延びて居る。流石のゼカリヤもギヨッとして、椅子から立上ッたが、妻は深切に愛嬌を湛えて「今度はそれで御食事が召し上がれませうと落着いた口上に、大もいよ〳〵落城し、腹を抱へて笑ひ出して、全く自分か惡かッた、以後決してこんな無理は云はぬと誓ッて、約束通り溫和な夫になッたと申す事であります。柔和で強かれといふ教訓を實踐した適例であらう。

○二月四日節分の日御前會議開かれしよし承りあくる日より開戰の機模色めき立ちて見えければ

東京　幹事　穗積歌子

雲の上の夜半のなやらひ聲すみて立つ春風そ世をゆするなる
なやらひの聲よりたてる春風にちりそくたけんしこ竹の露

○動員令發せられたるよしうけたまはりて
御かり人きそひ立なりいつまてか上見ぬ鷲の露に羽うたん

○宣戰の詔勅を拜して
みことのりいともかしこし誰かまた、のとに死ぬてふとしれかはん

○つひの平和をれきさせまへる大御ことをかしこみまつりて
大八州高麗山かけてのとまらん春をちきりて神風そ立つ
ひとしきりふらては晴れぬ露とてやしなとの風の醒きそふらん

○紀元節の日に
かみつ代に早く名をおひしあきつ羽は今こそおほへ四方の海原

○後備兵なる人の召集にあひてにはかに遠きところへおもむくをはけましおくりつゝきて後
ことほきておくる袂もぬるゝかな虎ふす野路の露を思へは

○妻子か上はよきに後見すへけれはとて
あとへになな心ひかれそ梓弓そのやからをは誰かみつかね

○應召後備兵
勵をすてはかりなけうち打きそひ つゝとりよろふますらをのとも

○應召兵の戎衣つけゝるを
ぬきかへてとるつゝ袖に身のはゝのなか〳〵ひろく見えわたる哉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

衣服（つゞき）

○寢具　吾人の起きて働ける間は、動脈血は多く腦と筋肉とに注ぎ居るものなり。睡眠中は全く働かざるに非ざれども、筋肉は其働を休止するを以て、溫を發すること少し。然るに血液は主として皮膚に運行するが故に、睡眠中は十分衣服を被ひて、其溫を失はざらん事に務めざるべからず、故に寢具は衣服と同じく蓄溫・吸水・通氣の三性を備へざるべからず。餘り暖に過ぐれば不知不識之を脫ぎ、或は發汗を催す故に寢具は寢心よく、然しも暖きをよしとす、依て敷布團を厚くし、掛布團を薄くするときは、重量を減じ而も溫を保つに適すべし。又寢具は汗脂等にて汚れ易ければ白き敷布を用ひて常に洗濯すべし。

住居

○氣候　我邦は寒暖相半ばする位置にあり、且つ雨量多く殊に四面海を以て繞ぐるが故に、海上を吹き來たる風は常に水蒸氣を輸送し乾燥の害を防ぐ、又風通しよき國にて寒熱・乾濕等を平均し惡しき瓦斯を散じ暑さを緩むる等其功大なれども寒き時には甚しく體溫を奪ひ又塵埃を散亂せしむるの害あり。

○空氣の用　一人一日食物の分量は水を除き三四百目に過ぎざるに空氣の分量は凡そ五石を要すと云ふ而して空氣の成分中吾人に必要なるは酸素にして、空氣の運動によりて、清潔なるものと相混和す炭酸は吾人の呼吸と燃燒とによりて多量を生ぜしむれど、是れ又風の作用により空氣と混合す多人群衆の室には、酸素を夥しく吸收し密閉したる部屋には炭酸の量多きを以て共に有害なり心すべし。

○空氣の混合物　空氣中には四元素の外に砂・煤・烟・綿屑・毛屑等種々不潔なるもの交り居れり、若し暗き室の一部に光線の射入あるときは、肉眼にて見る事を得べし是等不便なる混合物は食物中に入りて、害を爲し肺病を起さしむる事あり、空氣中にありて生活を有する塵埃は細菌にして、風により空中に散在し雨によりて地上に流され、常に吾人の身體に入らんとす注意すべし。

○家を建つべき土地　家屋を設くべき土地は、必ず清潔ならざるべからず。然れども自由に清潔なる場所を得る能はざるを以て先づ務めて高燥なる土地を撰ばざる可からず、其地若し卑濕なりせば清潔なる土を以て地上げを爲し決して川土などの有機物に富める土を以て地盛りを爲すべからず、極めて卑濕なる土地ならば、地中に排水管を填めて水を排除し以て地を乾かすべきなり。

○家の建方　家の方向は古來陽に向ひて陰を避くべしとあり、陽とは日光日熱大氣を意味す家は南面東面若くは東南に向はしむるを可とす、先づ主人の居室・寢室・老幼者の居室等を第一の向とし、次に食堂納戸等とし、應接所・客間・書齋等は反對の向を取るも止を得ず庖厨は日當りあしき處にては、寒に堪へがたく、水使ひなど怠り清潔に於て缺ぐ所あり又場所によりては食物調理の際臭氣を客室に導くが如き不都合あり、宜しく勘考すべし。

◎家事管理の要義

某婦人談話

○勤勉　主婦が勤勉でありますときは、其の子女婢僕に至るまで皆之に誘道せられて安逸怠惰を賤しむ樣になりますから、主婦は每朝未明に起き先づ其容儀を整へ、飲食を供へ、老幼をして各々其處を得せしめ、然る後日々定むる所の業に就かねばなりません。朝遲く起きると其日の仕事が次第に後れて來まして、自然仕事が疎放に流れます。又最も戒むべき事は、時間の浪費であります。寸時も徒に過ごしてはなりません、室内の遊戲なり、戸外の散歩なりは家人の快樂の爲にするのでありますから時間の浪費ではありませんが、只何等の目的もなく、何事をもせず、漫に時を費すは金錢の浪費と同じ事です。

○讀書　婦人が學校を出て家庭の人となりますと兎角讀書を廢して仕舞ひますからして、世間の事にも迂遠になり、餘程老へるやうになりますが、讀書を心掛くる時は、心力を練り、知識を廣むるのみでなく、何時までも心が若やぎたる氣になツて、學校時代を思ひ起し、思想も常に進步的になり、社會全般の事情にも通じ、處世上利益を得ること少くありませんから、一日の中何幾でもよろしいから、讀書することを必要とします。

○節儉　聊かの利を得ることに注意せんよりは、寧ろわづかの費を省くこそ節儉の要義でありますから、衣食、什器等總て之を大切に取扱ひ、假りにも使用に堪ゆるものは捨てゝはなりません、金錢は些少のものでも疎略にしてはなりません、家族にも常に奢侈なる風は之を惡む習慣を養成し、質素なる家風を作ることを時節柄特に必要と致します。

○秩序　一國を治むるに法律の必要ある如く、家政上又應相の秩序規律がなくてはなりません、物に秩序ある時は、勞少くして効多し、故に家具を取扱ふにも整然其位置を定め、妄りに之を更へざるやう注意せば、時間少く使用に便利を得ます、故に日用品の内にても、其用ゐる處に於て之を分類し、食品の如きも適當の場所を選び之を貯へ、衣服類の如きも夫れ〳〵分類して納め置けば、必用に應じて直ちに用を辨じます、若し之れが混雜して居る時は、一本の針を搜すに一挺の蠟燭を費すやうなことがありますから、万事秩序を守りて整頓せしむる事に注意せねばなりません。

○清潔　凡そ物は清潔なる程心よきものはありません、一家に於ても家屋門庭の掃除日々に十分に行屆き、衣服調度常に清らかに、食物の調理、又は器具雜具等總て汚れたることなきときは、家人の快樂は何程增すやら知らません、清潔は人に快感を與ふるのみでなく、人の心を端正ならしむるものでありますから、身體・器物・衣服・調度總て清潔にすることを主婦たるもの常に心懸けねばなりません。

◎泰西婦女訓

◎克く己を制して柔和忍耐なれ愛嬌を忘るゝ勿れ
◎病氣心配激昂の折は殊更に氣を和らげ反省せよ
◎怒りに任せて物言ひ振舞ふ事なく退いて考へよ
◎語るよりも默する方尚貴き場合あるとを忘るな
◎決して饒舌る勿れ贅言多辯は必害毒を生ずべし
◎人に求るは多きに過る勿れ人の足らざるを赦せ
◎高慢は汝の美性を破壞し汝の精神を腐敗せしむ
◎怒れる詞を返すな言ひ返す詞こそ喧嘩の種なれ
◎老人を非難する勿れ是卑怯なればなり慇懃なれ
◎最初の不和を愼めよ朝の不和は夕まで不快なり
◎柔和なる聲にて物言ふ事を習へ銳き詞を使ふな
◎深切なる事愉快なる事を物語らんと常に心懸よ
◎他人の意見を謹聽し其中より道理正邪を判ぜよ
◎人々の性質を能く悟り人の心配には同情を表せ
◎機嫌にムラあり愛憎に偏頗あり時々スネル勿れ
◎己を後にし人を先にする事を學べ謙讓は德なり
◎おセッカイお饒舌の人に用心せよ僞言多きなり
◎判斷を急ぐ勿れ可否を決する前原因を精査せよ
◎遷延する勿れ他人の利益は即時に之を爲すべし
◎冷笑する勿れ笑のルむ瞬間に惡らしき顏色顯る
◎他人の感謝を獲んが爲に自から深切を盡す勿れ
◎餘り急激に感謝する勿れ是誠心に非ずと認らる
◎名譽を自ら求る勿れ眞の名譽は他より起るなり
◎常に細々しく語る勿れ簡單明瞭こそ怜悧の特徵
◎汝の貧困を嘆ずる勿れ健康なれば餓死するなし

◎季節料理

○赤貝のぬた

赤貝の口へ庖丁を入れ、二つに割り身を出し、よく砂をこき、さてこれをよき程に作り、酢に食鹽少し加へて漬置き、大根の細打をよく食鹽にてもみ、かたく絞りたるに獨活の柔かなるを細かなる短冊切にし、前の大根と共にして、赤貝を漬置きたる酢にて、味噌のよく摺りたるをとき、韲へてよし、皿に盛りたる上へは蕃椒の粉か又は紅海苔など少しばかりふりかけて用ゐるべし。

○榮螺の調理

貝の儘、火の上へ載せて燒くべし。さて泡を吹出し煮えたる時、火より外し身をぬき出し笠をさり庖丁にて食ひよき程に切り、又貝の中へいれ、味淋醬油少し加へ、火にのせ煮えたる時中皿に食鹽を盛り其上へ貝をのせ出す時は風流のものなり。鹽の上へのせざるときは、薄板又は紙など敷て出す方よし。

皇威發揚　高崎正風
天つ日のてらさんかぎり大みいつかゝやかすべき時はきにけり

軍資獻納　大口鯛二
ふたつなき命をさへにさゝぐるに黄金白金何をかをしまむ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

●第三回大會につき會員に告く

來る三月廿七日(日曜日)午後一時より閑院宮御殿に於て本會第三回大會相開き候間御出席下されたく候

注

(一)會場は總裁殿下の御殿なれば自ら禮節等御注意あるべし
(二)靴又は草履御用意の事
(三)會員章御佩用の事
(四)當日は多人數參集の事と思はる御子供同伴は御用捨の事
(五)報告、演說、等有之候間相成べく遲刻なき様御參集の事

●各皇族方の御寄附　本會に對し各妃殿下より過日左の通り御寄附相成りたり。

一金五百圓	有栖川宮妃殿下
一金參百圓	伏見宮妃殿下
一金參百圓	東伏見宮妃殿下
一金參百圓	閑院宮妃殿下
一金百五拾圓	賀陽宮妃殿下
一金百五拾圓	久邇宮妃殿下
一金百五拾圓	華頂宮妃殿下
一金百五拾圓	山階宮妃殿下

●癈兵院の設備　今回の戰爭により負傷したる癈兵を收容すべき癈兵院の設立は目下の急務なるを以て、本會は此程相談役會を開き種々協議を遂げたる末、新に購入せる本部建物の一部を修繕して癈兵院に充つる事とし、來る八月頃迄には諸般の準備を調へ癈兵を收容し得るに至るべしと云ふ。

●第一師團御慰問　總裁殿下は第一師團へ御慰問の爲、去にし十九日會長公爵夫人岩倉久子、理事侯爵夫人大山捨松子兩氏を差遣されたり。

◎大會彙報

●式場の順序　大會當日晴天ならば御庭內、雨天ならば御館內にて左の順序により擧行の筈なり。

第一鈴　會員一同式場に集合
第二鈴　(1)君が代吹奏(此の間始終一同起立敬禮)(2)會長の挨拶(3)總裁殿下の御諭旨、會長の答辭(4)主事會務報告(5)演說(6)各地より祝電の披露
第三鈴　隨意退散

●當日の演說　子爵小笠原長生、男爵清浦奎吾、衆議院議員島田三郎の諸氏演說ある筈なり。

●有功章授與　當日總裁殿下より直接に有功章御授與相成るもの十數名あるよし。

●皇族方の御臨場　本會名譽會員にあらせらるゝ各皇族妃殿下は當日總て御臨場あらせらるゝよし。

●質素なる會合　本年は時節柄萬事質素を旨とし軍樂の吹奏の外、別に餘興等の催しなく、茶菓を各自に供するのみにて、別段辨當等の給與を廢する趣きなり。

●分掌事務章程　當日事務の役割及び掛員は左の如し。

○會場整理係　理事侯爵夫人　鍋島榮子　外評議員幹事

會場整理係は當日來歷庭園の裝飾、各室の配賦、報告演說等位置の準備を爲し兼て來會者の混雜を豫防し式場の秩序を維持することを掌とる

○來會者接待係　理事前公爵夫人　近衛貞子　同　毛利安子　外一同

來會者接待係は來會者の徽章及招待狀等を調査し送迎其指導を掌とる

○贈品授受係　理事公爵夫人　德川泰子　理事子爵夫人　一谷玖禰子　外一同

贈品授受係は庶務係より菓子を受領し遺漏なく之を來賓客等に供給することを掌とる

○茶菓係　理事侯爵夫人　大山捨松子　外一同

茶菓係は來客の爲に茶菓を饗す其供給指示監督を掌とる

○庶務係　理事侯爵夫人　島津田鶴子　外一同

庶務係は各分掌外諸般の事務を處理し一般來賓及新聞記者の應接(質問に答へ或は說明を與ふる等)の事を掌る

分掌事務を概定すと雖も細部の事項は各係に於て之を規定し、尙ほ他に關係あるものは豫め之と交涉協議し、實施に際し澁滯なきを要す。

●支部の新設　臺灣には先月本會支部を臺北臺中臺南の三ヶ所に新設、各廳長婦人支部幹事長に囑託せられたるが、三ヶ所とも非常に入會者多く、臺南の如きは既に二千餘名の會員を得、會費千貳百餘圓を本部へ回送し來りたり。

●外國へ支部新設　北米合衆國シヤートルに於ては同地駐在久水領事より同地へ支部設置の議照會し來りたるにより、多分日ならずして設置せらるべし。

●沖繩縣支部發會式　同地支部に於ては支部發會式を本月廿五日擧行する趣なり。

●本會への寄附金　此節本部に受付くる寄附金は非常の增額にて每日平均千圓以上に上れり。今其內五十圓以上の寄附者を左に掲ぐ。

金五百圓	兵庫	大江うた子
金五百圓	男爵夫人	三井苞子
金參百圓	公爵	近衛文麿
金參百圓	神田	三井照子
金參百圓	小石川	三井壽文子
金參百圓	麴町	早川千吉郎
金貳百六拾八圓	兵庫	オリエンタルホテル
金貳百五拾圓	横濱	バプチストランシユ
金貳百圓	侯爵夫人	細川峯子
金貳百圓	公爵夫人	島津田鶴子
金貳百圓	韓國釜山	日本婦人會
金貳百圓	麻布	三井猶子
金百貳拾圓	侯爵夫人	鍋島榮子
金百圓	伯爵	柳澤保惠
金百圓	日本橋區	菊池惑子
金百圓	日本橋區	中井かれ子
金百圓	日本橋區	長井とし子
金百圓	男爵夫人	清浦錬子
金百圓	兵庫	嘉納檉子
金百圓	麻布	秋山銑子
金百圓	麴町	村井孝子
金百圓	麴町	村井うの子
金百圓	兵庫	米澤りやう子
金百圓	前侯爵夫人	池田鑑子
金百圓	侯爵夫人	池田安喜子
金百圓	伯爵夫人	大村寵子
金百圓	日暮里	吉田康子
金百圓	公爵夫人	德川泰子
金百圓	大阪	藤本榮子
金百圓	大阪	熊谷ちか子
金七拾圓	伯爵夫人	德川知子
金七拾圓	四谷	相馬識子

一金五拾圓ッヽ

神田	古屋ます子	神田	堀內えん子
神田	三輪はみ子	淺草	須藤きく子
芝	平田滿子	日本橋	谷村きん子
芝	大倉夏子	芝	村上ダドレー
芝	廣瀨鐵子	芝	森村鹿枝子
子爵夫人	東園榮子	公爵夫人	九條惠子
靜岡	田村よれ子	四谷	波多野爲子
小石川	原龍太	伯爵夫人	細田伴子
牛込	中島佐久	兵庫	マニユー、ウイグナル
麴町	早川里子	麴町	早川勝見
神奈川	木阿彌さき子	日本橋	鷹部作子
日本橋	大橋すま子	日本橋	前川エツ子
日本橋	渡邊大太郎	本郷	石崎鶴子
子爵夫人	松平保子	愛知縣	深野ゑ子
清國厦門	上野綾子	清國厦門	赤羽英子
大阪	ガツフル、ミルラ	大阪	菅井富榮子

◎各支部の景況

●各支部の概況　戰爭以來各支部の會員增加せしが、今最も著しきものを擧ぐれば、東京の七千人石川の七千人、大阪の五千人、神奈川福井の三千七百人、廣島愛知の三千人等にして、大會當日までには、七萬人に達すべき見込のよし。

●長崎支部　同支部長荒川菊子氏は、同地幹事數人と共に、佐世保海軍病院へ收容中の負傷者を慰問し、蜜柑二函を贈與し、各病牀に就き、夫々慰問の言葉を陳べし處、何れも大に感激せしよし。

●島根支部　同支部にては、去月廿二日知事官邸に於て、職員會(市の幹事以上)を開き出征軍人の留守宅を慰問する事、及び會員募集に盡力する事を協議したり

●兵庫縣支部　同支部にては、出征軍人の神戶驛通過の時は、幹事長以下幹事方繰合せ、停車場に出て、軍隊を送迎し來りしが、去にし六日の事とかや。一人の兵卒恭しく一禮しつゝ、白紙に包める書狀やうの物を幹事長に渡して、忙はしく姿を隱したり。賢しき夫人は早くも仔細あるべく看て取りしかば、其儘包を懷中して後にて披き見たるに、中には二葉の短册あり、水莖の跡も匂やかに認めたるは、二首の詩歌にして雅號を無禪と云ひ題を出征途上として、

いざゝらば我が敷島の山ざくら
烏拉爾の峰に咲かしてぞみむ

寄藥城頭舊健兒、空耕隴畝闕九期、乍看西北妖雲起、掣翻十年斬露旗、　平井久次郎

とぞ、記されたりと云ふ。

●岩手縣支部　岩手縣一關町にては、本月八日幹事會を開き、左の事共決定したるよし。

一、會員勸誘に關する件、
二、軍人慰問に關する件、
三、戰死傷病者に關する件、
四、傷兵に關する件、
五、出征軍隊通過の際接待に關する件、
六、在鄉軍人應召發途の場合には見送りを爲す事、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世論一斑

◎家族援護を國家事業となすの議　法學博士天野爲之氏は論して曰く今回の戰爭に就て、陸上に三軍團を出すれば、約二十万の兵を動すこととなる。其中十万は豫備兵後備兵にして他の十万は現役兵なりと算當して大過なかるべし而して現役兵は概して家族を有せずと雖も、豫備後備に至りては概して已に家族あり。

果して然らば十万の家族は突然其の柱石を失ひ、途方に暮るゝ者も多かるべく、中には日々の生活上に困窮を感ずる者すら決して少なからざるべし。蓋し政府に在つては、夙とに戰死者遺族扶助の設けありと雖、其金額如何にも僅少にして、扶助の目的を達するに十分ならず、而して征戰中家族を扶助するの一事に至りては、未だ其設備すら之無きなり。是豈に國民の戰士に酬ゆるの道ならんや。蓋し邦人の死を視る歸するが如きは天稟の美性なり、然りと雖、導びくに其方を以てせずんば、此美性も時に消沈の憂なしとせず。封建の制武士をして內顧の憂を絶たしめたるが如きは、彼をして死を恐れざるに至らしめたる一大原因にあらざる無きか果して然らば軍人家族の援護は獨り無告の窮民にのみ之を限るべからずして、先づ總べての軍人の家族に及ぼして以て其分に酬ひざるべからず。是に於て乎世の義捐喜捨のみにては其目的を達するに足らずして、他の方法に待たざるを得ず。他の方法とは何ぞや。他なし家族援護のみを以て國家の事業となし、國費を以て此目的を達するの必要を見るなり。若し其財源に至りては。從軍中に於ける家族の扶助は軍費の一部として之を支出すべし。而して此扶助は貧富を論ぜず劃一に之を與ふ可し。富んで之を要せざる者は宜しく之を義捐すべし。夫の遺族扶助料の增額に至りては固と是れ幾年に渉る經常歲出の性質を帶ぶるを以て、經常收入に因て之を支辨す可し。云々

◎遺族救護の勸業場　尾崎市長等は回航軍艦歡迎會費三千餘圓の剩餘あるを以て此を基金となし猶全市の力を仰ぎ以て勸業場を設け出征者の遺族中困難なるものを使役し、老幼婦女をして適當なる職業を得せしめんとすと、大に可、東京市は範を全國に垂れ以て此擧を全國に普及せしむべし。出征軍人の勞や極めて大吾人內地にあるものは滿腔の同情を彼等の遺族に傾注するものなり、慰問もすべし扶助料も與ふべし、其他如何なる手段を以てするも彼等後顧の患なからしむるは出征者に對する內地在留者の義務なり責任なり。　(實業の日本)

◎勤儉貯蓄の解　勤儉とは先づ勤むる事を第一の要義となす、各人が其業務職務を奮勵して生產力を增し、而して後に無用の冗費を儉ぜざるべからず、一方に生產力を增す事無くんば一方に出費を儉するも何の益あらん、世人をしてその業務職務に勉勵する我が軍士の如くならん事を希望す、能く勤むる者は必ず能く儉せむ、怠るものに對して如何ぞや儉節を求むべけんや、貯蓄の論も亦た之に似たる事多し、金錢は有形の資本にして心力體力は無形の資本なり、一方に金錢の有形資本を貯蓄すると同時に一方の體力心力の無形資本を貯蓄せざるべからず。

食物を節するは不可に非す、唯此際無用なる贅澤食物を廢して體力心體を養ふべき衛生食物となし、料理屋風の高價なる食物を廢して家庭風の經濟的食物となさん事を勸む、　(報知新聞)

雜

◎女子選擧權　婦人の權力頗る強き米國に於てさへも女子の議員選擧權は奪はれ居り、世界各國一も選擧權を與へたる國なきは婦人界の爲に大に遺憾とする處なりしが、近着の電報によれば、我が同盟國なる英國衆議院に於ては六十八に對する百八十二の多數を以て、女子に選擧權を與ふるを可とする決議案を可決せりと云ふ、これよりして今世紀に於ける世界の女子の勢力は一變化を來すべし。我國の有志婦人も大に議會に強要しては如何。

◎在米邦人の恤兵金　桑港在留の本邦人は日露戰爭に關して軍資金及び陸海軍恤兵金を集め之を獻納するの目的を以て報國義會なる者を設立せしが出金者續々ありて頗る盛況なる由。

◎英國人の寄附金　英國ロンドンに於て林公使夫人の主唱により我が出征軍人の遺族扶助の爲英國人より義捐金を集め居る趣きは屢々報知せしが、此程既に十七万圓に達したる趣き、正金銀行まで電報ありたるよし。

◎外國人の寄贈　左の書面を添へ、本會へ寄附せられたり。

拜啓拙者は、多年貴邦に住し、貴國に對する同情の念旺にして這回の戰爭に際し、之を表明するを悅ぶ者に有之候即ち金貳百五拾圓差遣し候に付、兵士の寡婦及孤兒の資金に充用の義、相願度候　拜具

横濱山下町三ノ九十番バプチスト、ルンゲ

吾最愛なる片岡夫人わらわは、國家の爲に勇奮征露の途に上ぼられし、貴國兵士諸君の保助なき遺族を救助せんとの微意を表せんが爲に、金五拾圓の義捐を爲さんとす。願くはわらはが微意を採用されんことを。終りに臨み、わらはは深く貴國の陸海軍が一大成功せられて、凱歌を奏せらるるの日あらん事を祈る。

汝の忠實なる友　ミスコール、ミルラ

◎兒童心得　京橋區長は、區內の學齡兒童保護者に向つて、左の心得書を配布したりと云ふ。

(一)自分の仕事は勸めてなせ(二)苦しい事も我慢してせよ(三)躰を丈夫にする事を心掛よ(四)筆墨紙を無益に使ふな(五)玩弄品を買ふな(六)買食をなすな(七)身なりを飾るな(八)小遣錢をねだるな(九)貯蓄を心掛けよ(十)小遣帳をつけよ

◎戰時紀念的植林　各地方共に勤儉の美風を奬勵しつゝあるが、目下戰爭を紀念として、各府縣の禿山に、樹を植付るが如き、最も、有功なる方法の一なるべし。現に鹿兒島縣に於ては、各町村に合して、之を行はしめ居るよしなるが、二十万の戶數ある地方にて、一戶一段歩を植林せば、二万町歩の森林を得べく、其伐期に於ては、六千万圓の收入を得る法なりと云ふ。

◎町村基本財產の生產　國債に應ぜんとしても、町村等に於て資金なき時は、戰時に於ても、其義務を盡す能はず、一國の基礎は、町村にあるを以て町村の基本財產を作るは、現時の急務なり。現に愛知縣に於ては、一村申合し、夜業を營み、一戶必ず三房の繩をより、基本財產に供し居ると云ふ。各町村も之にならふべきなり。

◎伏見宮妃殿下の御仁心　此程某師團の應召員が市內各所に宿泊せる時の事なりしが、伏見宮妃殿下には、多くの宿舍主の中には、兵士を冷遇する者ある由を聞召されて、尠なからざる不快を感じさせ給ひ、皇族方の御殿は徵發除外の規定あるに拘らず、進みて宿舍に充てらるべく申し出てさせ、多數の將士を迎へ入れられて、優遇歡待の限りを盡し給ひしかば、宿泊將士は一同感泣して、御盛德を謝し奉れりとぞ。

◎中山一位局の高德　中山一位局の御德高くあらはれて、下を惠む御情のやさしさは、春の花の匂ひすぐれたるにも優りけるを、さても今度の戰役には大方ならず御心を出征軍人の上に注がせたまひけるが、此程も沼津の御別邸において彼の決死隊七十七人の一人なる土屋勝太郎の勇ましき働き振を聞しめされ、靜岡縣人なるを殊に御心にとめさせ給ひ、父梅吉が駿東郡清水村長澤といふにあるをよび出て、御手の錦の袋をたまひしかば梅吉は一兵卒中の勝太郎が働きをだに、斯程御心にせさせ給ふかと、うれしき淚に袖もひぢて、御惠みの篤きを伏し拜みけるとなん。

◎健氣なる軍人の妻　京都四條通猪熊西入蒲鉾商豫備工兵一等卒田中德次郞の妻ちよ(二十)は、良人入營の留守の後を晝夜大に家業を勵み、家計餘裕あらざる生活にも拘はらず、夜業の收入金若干を恤兵金に獻納せりとぞ。軍人の妻たるものは恤兵金などに依賴心を起さず、この婦人の如くありたきものにこそ。

◎一家內揃ひての篤志者　廣島縣下柄町にては、國庫債劵の募集豫定額五萬一千餘圓なりしが、去九日迄に十萬三千六百圓の應募者あり。また軍資獻金恤兵部寄附者續々ある中に、米穀小賣業延谷瀧藏(四十)は妻まつ(四十)との間に七人の子を養育し富有の身分にあらねど、今回軍資金の內へ長女かね(十六)が帶を買はんため貯金せし金七圓を、長男辨之助(十四)は學校より歸宅後毎日一臼づつ米を搗き、一臼に付一錢づゝ父よりもらひ受たるを貯金し三圓を、次女とくの(九年)次男光男(七年)三女こつる(六年)三男順之助(四年)四女市子(二年)等は菓子果物など買食を禁じ、貯金したる者各一圓五十錢づゝ合計十七圓五十錢を獻納したりとぞ。

◎少女の行商　大阪東區北濱四丁目兩替商北島忠七の次女花子(十二年)は、同區愛日小學校の四年生にて、家には下女下男數名を召使ひ、學校及び琴、茶、生花の稽古にも、下女を連れて通ふにも似ず、學校の教師より時局の話しを聞きて感激し、父の許しを得て石鹼の行商を始め、其利益を毎月末に朝日新聞社恤兵に託贈するに決し、去月十四日より二十九日までの利益金十圓を第一回分として納付せり。其服裝もいと質素にして可憐なりとぞ。

◎篤志なる二少女　廣島縣沼隈郡松永町寄留同郡郡長市來圭一氏長女てう子(十七)同郡同町寄留山陽鐵道松永驛驛長岡本富五郞氏長女きし子(十七)の兩女は、相談して、去る二月上旬より家業の餘暇を以て、レース絲を以て銅貨入、羽織の紐等を製し、自ら其製品を地方人へ販賣し、賣上代金十圓餘を其筋へ獻納せりと。

◎廢物利用の恤兵僧　大阪東區東中野町二丁目北岡英靜といへる僧は、時局に際し恤兵に獻じたきも資財無きため、僧の此際爲すべき所なれ孤身飄然小車を借り入れ、市內を曳歩きて道路其他に拾物を集め、之を鬻賣し、廢物利用の金を恤兵に充てんと志し、此程既にその收入金一圓有餘を朝日新聞社に託贈したりといふ。

◎謹告照介　日本橋區ふきや町の中西義兵衞方より賣出したる戰捷紀念模樣絹綿はんかちーふは當時の時好に適し恤兵品に適するよし◎同しく日本橋區の高橋商店より賣出せし地圖入りハンカチーフは見本送り來りしが至つて兵士には重寶の品なり◎文明堂の「戰爭と婦人」と云ふ書籍は本會の檄文及び奧村刀自の略傳を載せられたれは一讀せらるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

盃類圖案一班

（金、銀、輕白金、白銅、安質母尼杯及木盃製作應用）

● 玉田先生圖

山海圖

功勞表彰ノ最モ洪大ナル觀賞ニ調用ス

東京市京橋區尾張町二丁目十六、十七、十八、十九番地

時計寶玉類貴金屬美術品及各種銃砲火藥商 **天賞堂**（特約電話新橋三三三）

●東京市神田●長崎臨時●名古屋臨時●大坂市●濱崎市●熊本臨時●長崎出張●小樽臨時

天賞堂出張所々在地

無料贈呈 天賞堂營業一覽（送料四錢）

麝香獸印 **ムスク香水**

本石町四丁目 芳香藥種問屋 松澤商店

ゑり善

恤兵品 **ハンカチーフ**

戰勝紀念 **ハンカチーフ**（絹綿各種）

東京市日本橋區ふきや町 **中西儀兵衛**

電話浪花七百番

良藥しにてし口に甘し

従四位淺田宗伯先生直傳 **淺田飴**

だんせきに淺田(あさだ)飴(ちゃめ)

空腹(すきはら)にめし

定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢

本家 東京神田鍛治町 大阪北久寶寺町 **堀内伊太郎**

日本全國到る處の藥店に販賣す

三 半ゑり帶揚

全勝近き目前に有 各位方富國請合大意に買給ふべし金の廻りよろし

○新案帶どめ日本締め一名露國占め○絞り形襟飾
○縮緬ショール安賣○京御召前掛○帛紗○下締め
○新柄帶片側地○絞り形しごき地○巾着○涎掛
○雀形○ゑり治形○まげ入受賞紀念形おろし小賣
○高等洗粉チエリー 麝香入 發賣元本舖
○顏肌美白

新橋竹川町十二番地 電話二〇二七 **ゑり治** 本店

神田表神保町壹番地 電話本局九五二 **ゑり治** 支店

本店卸部 東京日本橋區長谷川町貳番地 **美濃磯本店**

電話浪花二八九九 電略ミイソ

小賣部

本郷區本郷五丁目十五 電話下谷一四一九 **美濃磯本郷支店**

淺草諏訪町廿貳 **美濃磯淺草支店**

芝區新櫻田町九番地 (美) **小田商店**

牛込神樂坂町二丁目八 (内) **伊澤商店**

四ツ谷傳馬町一丁目 (内) **伊澤支店**

ツキビジン 毛はへ油

は毛根の營養を充分ならしめ毛髪の發生を盛にす又髪を黒く艶はしくならしめ、やけど、はげ、其他毛の生すべき處に發毛せさる時此油を用ゆれば直に發毛す

煉油も同様の効能あり

瓶入香油廿五錢 煉油蓋物入十五錢

東京神田久右衛門町 電話浪花一一五二番 金城堂 大野金五郎

婦人科産科榊病院

院長 醫學博士 榊順次郎

副院長 醫學士 久保徳太郎

東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

生儀杏雲堂病院勤務の餘暇**自宅開業す**

診察時間 日、火、木、土曜日 自午前九時至正午

神田美土代町三の十七 電話本局（一九七〇番） **板垣亨**

●**水原産科婦人病院**

○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇九番）○外來診察午前中○入院隨時○同院に私立産婆學校の設あり

小兒婦人科專門

本所區緑町一丁目卅一番地 南わり下水際 **西川醫院**

電話浪花三千七十三番

◎最新良法◎◎◎

るゐれき 切開を要せずして根治す

●心臟病 ●脚氣 **專門**

神田區三崎町三の一四通り二十五 **千葉内科院**

家事衛生

正四位勳三等醫學博士 **三宅秀先生著**

大日本女學會發行（日本女子大學校教科書）

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁 定價金六十錢 郵税金六錢

此書は文部省學校衛生顧問内務省中央衛生會委員元醫科大學部長東京帝國大學名譽教授なる三宅醫學博士が文部省の囑託により講義せられたるものなり。書中に**衣服食物住居育兒看病**の五篇ありて、我國一般の民度に應じ、何れの家にても實行に差支なき様、懇切に說き示されたる、世に類なき家庭主宰者の寶典なり。

●**賣捌所** 東京神田區一橋通町七 **有斐閣**

女生徒募集

本科四ヶ年●英語專科四ヶ年●選科●各科各級入學を許す●四月十一日新學期開始

京橋區明石町四十七番地 **女子語學校**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂　神田區表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

◉三浦秋水先生著

新刊　戰爭と婦人

戰時に於ける婦人の覺悟、任務、日本女子が戰時に有する歷史等より説き起して凡そ軍國の婦人が心得べき事項を説く◉附錄には婦人報國美談あり縱橫無盡、多く現今軍人の夫人、未亡人等に關する談ありて時節柄尤も有用の書也◉山口辰之助氏は本書壹千部買上げられたり

◉戰爭中特別減價金二十錢郵税金四錢

◉小野藤太氏著

新版　軍人と宗教

▲定價五錢
▲郵税二錢

五號總假名附十冊以上割引あり進物用大便利なり

發兌元　東京本鄉區本鄉四ノ五　文明堂

帝國貯蓄銀行

東京銀座一丁目河岸通り（電話新橋八一六・二八〇八）

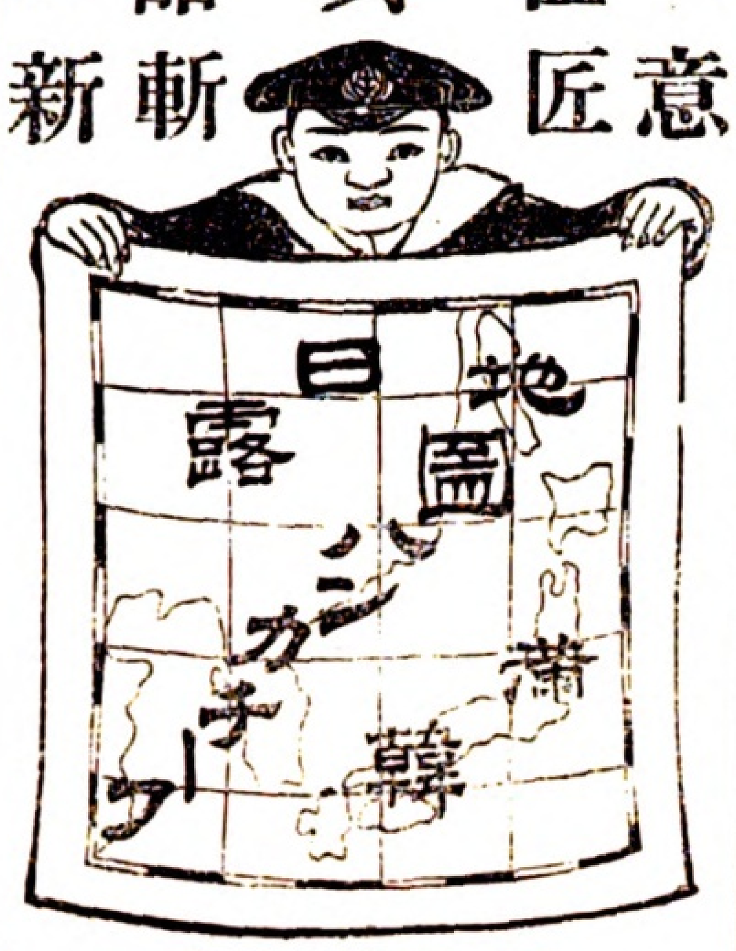
本鄉一丁目　本鄉支店
飯倉三丁目　飯倉支店
赤坂一ツ木　赤坂支店
四谷大通り　四谷支店
南品川一丁目　品川支店
橫濱吉田町　橫濱支店

牛込神樂坂　神樂坂支店
神田須田町　須田町支店
兩國米澤町　米澤町支店
淺草雷門前　吾妻橋支店

代理店　日本橋坂本町　田中銀行

●一錢以上何程にても御預り最も御便利に取扱申候
●毎月五日迄の御預金は其月分の利子を付け申候

意匠斬新　恤兵品



特製大袋金五錢景品ニシテ廿袋ニ對シ輕銀煙管一本進呈

めさましし草

東京神田　大野金城堂　電話浪花一一五二

▲出征軍人必携實用品▼

●日露滿韓地圖ハンカチフ　地圖確實、印刷鮮明褪色變なし　地質絹、キャラコ細地　尺八寸　尺五寸

●戰勝紀念ハンカチーフ　石版印刷　新版數種

●和洋風呂敷。タヲル　各種

御誂印入物多少に不拘迅速調製可仕候

東京市日本橋區元濱町　高橋商店　電話浪花九百十八番

▲販賣所は各地名有なる洋物雜貨店に販賣仕り居候

紳士貴婦人用　高等香油チエリーオイル

大八十五錢　中四十五錢　小二十五錢

東京日本橋區本町二丁目　高橋初次郎

◉最も束髮用として適當の香油なり

此外上等鐵瓶湯沸銅鐵物類

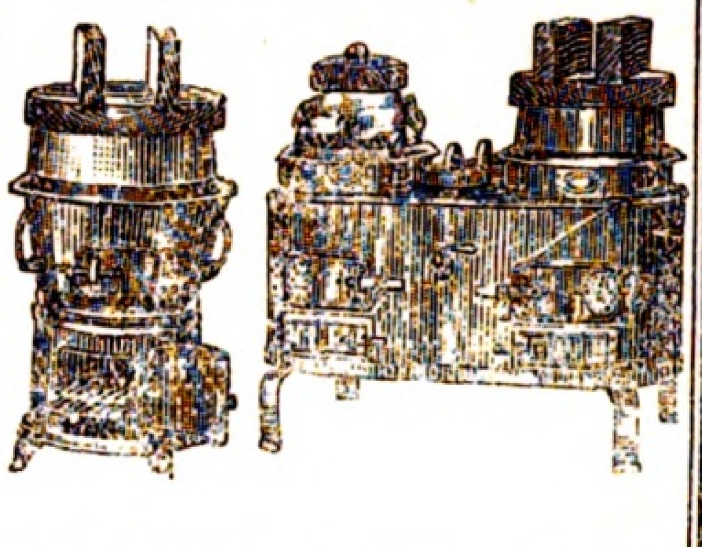
アルミニユーム製器具　洋食器具一式　室内暖爐各種

東京淺草區淺草橋際　阿部彦四郎（電話下谷特一九二三番）

第五回博覽會　賞牌受領

薪炭兩用●專賣特許

富貴竈



說明書御一報次第進呈

大日本女學會編纂

婦人寶典

此書は小松宮賴子殿下の總べさせられ女學の通信教授を以て世に名高き大日本女學會に於て多年蒐集されし所の女學の諸材料中より最も婦人に適切なる部分を拔萃したるものと新たに名家の起稿されたるものとを一書にまとめ以て婦人座右の良師友たらしめんが爲に編輯されしものにて殊に其學藝諸科目は孰れも專門大家の擔任に係り實に類なき婦人寶典なり其目次並に講述者左の如し

本文

○女子修身	女子高等師範學校教授	佐方鎭子
○禮法		同上
○家庭教育	三輪田高等女學校長	三輪田眞佐子
○家事管理	女子高等師範學校教諭	後閑菊野子
○家事經濟		同上
○家事衞生　衣服	東京帝國大學名譽教授醫學博士	三宅秀
飲食物		同上
住居		同上
動靜		同上
育兒		同上
婦人衞生		同上
看護	東京帝國大學教授醫學博士	吳秀三
○裁縫	東京裁縫女學校長	渡邊辰五郎
○割烹	故	田邊和氣子
○挿花		同上
○點茶		同上
○作文		今泉定介
○作歌	御歌所寄人	阪正臣
○習字	御歌所參候	大口鯛二
○畫學	女子美術學校教授	武村千佐子

卷頭挿畫

○音樂（明治音樂會幹事東儀季治）○剌繡（共立女子職業學校剌繡主任教師木村仲子）○造花（同校造花主任教師金子友江子）○編物（同校編物主任教師鷲原繁尾子）○綿絲（同上）、兒童心理（日本女子大學校教授高嶋平三郎）○なりむすび○食品分析表○歌書式○歌御會始預選歌集○婦人名歌集○交際の栞（泰西禮法一斑）○家庭遊戲（各地特殊の料理）○法制大意○經濟大意○女訓○和書解題（漢書解題）○上古、天平、藤原、鎌倉、足利、德川、今代、各婦人服裝の色彩畫（村田丹陵筆）○北明高后、紫式部、承香殿女御、小大君、平政子、山内一豐夫人、各肖像寫眞○明治貴婦人肖像寫眞○明治閨秀鉅腕寫眞（以上口繪）此他妙中の挿畫數百個

◎本書は内容の有益多趣なるのみならず外形をも高尙優美に裝飾せるものにて進物賞品等に極めて適當なり◎本書は各地特約書肆に發賣を托しあり御便宜の場所にて御購求を乞ふ◎本書の見本御入用の御方は往復はがきにて御申込次第進呈すべし

和紙摺帙入全五冊（紙數千三百頁）實價金參圓參拾錢
洋紙摺（總クロース製）合本壹冊（紙數同上）實價金貳圓貳拾錢
小包郵送料内地　和裝貳拾錢　洋裝貳拾錢
（何れも總振假名つき）

發行所

東京京橋區柳町五番地　郁文舍
大阪東區南本町四丁目　積文社

◎右の書籍發行につき本會事務所に於て購讀者の便宜を計り左の特別割引を以て愛國婦人讀者會々員會友並に「をんな」讀者達へ送本方取扱ひ候

和裝　割引代價金貳圓九拾錢
洋裝　同金壹圓九拾五錢

但し小包郵便料前揭の通り貳拾錢を要し候尤も東京市内は郵送料を要せず候

東京市麴町區下二番町三十七
大日本女學會事務所（電話番町一三三〇）

わたきもの

專賣特許山崎貞次郎發明

○和服を仕立るに便利なる機械にして何人にても早くぬいものをなす事を得る良好なる機械なり
○使用解說定價表は郵券二錢御送附次第呈す

販賣店　東京々橋區北槇町九番地（電話本局一三二〇番）早川商店

愛國婦人「をんな」並に女學講義廣告取扱

神田區千代田町　博報堂　電話本局一四四番
京橋區尾張町　弘報堂　電話新橋八五一番
京橋區南鍛冶町　一星社
日本橋區上槇町　萬年社　電話本局一一一五

明治三十七年三月廿五日發行（毎月十日廿五日二回）

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會内

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十七年三月廿五日發行（每月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

愛國婦人第五十號附錄

名譽會員

山階宮妃勳二等恒子殿下

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN